

出来ないものであるから、ボール紙などに一つの型をつくらせて、それを適當に配列させるのである。

自分で選んだ材料を自由畫で畫かせて、これを適當に切りぬかせて、ボール紙で裏うちをさせて型をつくらせるのである。

畫用紙などにあらひ方眼を作つておいて、その中に型をそれぞれおさめてゆくのである。

模様は模様が出來て、その配列を適當にして模様が出来るので簡単にそれだけでもよいわけであるが、その上に更に色をぬらせる事によつて一層模様らしくなるのである。

幼児たちの選ぶ配色はごく簡單ではあるが又そこに大人には味ふことの出来ない幼児らしさの味のある配色が出来るのである。

模様は模様の單位になるものが選ばれて型を作り、その型を配列し、さらにそれに色をぬるといふ様に幼児たちの仕事としては相當連續した仕事の様であるから時間も相當にかゝり頭も使つてしなければならぬのであるから一時の仕事の分量は少くして、充分に考へる餘地を作つたり、又仕事を丁寧にして型をつくる事、その型を次々と置きながら畫く事など出来るだけ丁寧にすることなどに特に注意しなければならぬのである。ことに色ぬりは出来るだけ分量を少くして、折角の模様を損じない様にぬる事が大切である。

出來上つた模様はボールの空箱を利用して紙ばさみに作つたり、お人形の着物にしたり或は手提かばんの材料にするなどいろいろと幼児たちに直接役に立つものとして利用するのが最も適切なことである。これによつて次にする仕事にも興味を深くするこ

ともなるのである。

誘導保育

菊池ふじの

スキー場 二月、外は一面の銀世界です。とは言つて見たものの、東京に住んで見て思ふことは、何と淡い雪の生活でせう。一年に多くて四五度の大雪があるか無しの有様、まして四國、九州と考へて見ますと、遙か南の暖國には、この課題は、子供の日常生活とは餘りにもかけ離れたものであるとも思はれます。そこはよるしいやうに。繪にでもよつて、話しながら、想像しながら、致しませうか？東京では丁度この課題がよつてもつて出て来る所以かも知れません。つまり、外が、来る日も来る日も銀世界、人は皆雪靴で、膝をも没する雪を踏み分け踏み分け往來して北國では、わざ／＼室内にこの課題を設けるまでもなく、外で雪合戦にスキーに雪釣りに、竹馬で雪靴で、十二分にほんたうの雪の生活が満喫出来るのですから。その點この課題は、東京には丁度いいのでせう。つまり大雪が三四度あつて、幼い子供にも大雪のぞうであるかを想像させ得る目の材料を充分に與へられるわけですし、それかと言つて、實際の雪の生活はさう満喫とまではゆかないのですから。それに近來は、運動といふことも盛になり、スキー位の言葉を知らない子供も無いからです。

砂箱があつたらそれを用ひて致しませう。砂でもつて大體の土臺を拵へて置きます。つまり一端を山、他端に向つて傾斜をつけ

ておくといふ風にでも。この上に雪を降らせませう。雪は或る時は、綿を、或る時は白墨の粉をふりかけたこともありませう。今はどれも貴重な品で、こんなことに使つていゝかしら？と迷ひます。地方だつたら、摺り合せると白い粉になる石が、河原に澤山轉がつてゐるのになあ。と幼い頃の記憶を呼び起しながら考へてゐます。

一面に銀世界が出来ましたら、スキー人のたむろする小屋を作らませう。スキー小屋はボール紙で。空箱等を改造して作つた方がもつといふと思ひます。スキー人形は畫用紙で作ります。或は破れ易くて困りますがきびがらを用ひて致しますとスキー道具も人も容易です。或は粘土でもよろしいでせう。

それから、スキー場は、山の頂から四方に向けて絲を張り、それに國旗や軍艦旗を通して賑やかな會場に致しませう。スキー小屋は先生と子供の共同製作。

スキー人形や國旗等は子供達銘々に作らませう。この個人の製作物を綜合して一つのスキー場が完成するわけです。

この課題への導き入れは、雪の降つた日を逃さず、スキーの繪を用意しておいて始めませう。幼児にも先生にもスキーの経験のあるのは大變いゝのですけど、兩方に経験の無い時は繪に頼つて、子供と共に想像しながら進めてゆきませう。

期待効果は、運動に對するごく初歩の興味、共同製作、季節への關心、と言つたやうのことにならうかと思ひます。

繼續作業時間は一週間位が適當。

ひな祭 三月三日のお雛様ですけれど、二月の半ば頃から始め

ませんと間に合ひません。

お雛様は、及川先生御考案、「幼児の教育」掲載のお雛様だけでも澤山あります。今年は何のお雛様に致しませうか？

綺麗な伊豫証を貼つて作るあの豪華な、ふくらみ雛、内裏様から五人雛に至るまで、皆同じ三角の立體から出来てゐる、やはり伊豫証を貼つて作る、入れこ雛、新聞粘土で作つてゐるのぐで採色するお雛様、古葉書を利用して作るお雛様(二種)、その他畫用紙で立つやうにするもの、色紙で折つてこしらへるお雛様、どれも皆それによろしく、それにしやうかと暫く迷ひます。漸く決めて自分の組のな作りませんがよその組で拵へたのも又欲しくなり、時によつては二種も三種も作つて、ふうふう忙しがるのがよくあります。

かういふ時局だから伊豫証の要るお雛様はと言つても、三十人一組の組全體の分をこしらへるのに、十枚もありますと充分なのですから、お雛様だけは、充分に美しい、いゝお雛様を作つてやり度いと思ひます。「幼児の教育」二月號に毎年新しい及川先生の御製作が發表されてありますから御参照下さい。

お雛様は、ふくらみ雛や新聞粘土のお雛様のやうに、大人の手傳ふ部分が多いとか、乾きに時日がかゝるとか言ふの、場合は、親王様と内裏様だけにする時もあり、又入れこ雛や畫用紙で作つた時のやうに、プリントが出来、銘々の子供のはたらく場合が多く大人はたゞ簡單な後の整理だけしてやればいゝといふ場合は、親王様から五人雛、櫻橋まで拵へたこともありませう。

それにしやう、いくつ拵へやう、といふことは、その幼稚園の

御事情にあることです。

かくして子供達のお雛様が出来かけましたら、共同の緋毛氈を敷いた雛壇に、そばからそばから飾つておきませう。

そして三日か、その前日ぐらゐに、子供達銘々に持たせて歸し、お家のお雛壇に今年のお雛様として、しかも御子さん自身の貴重な製作のお雛様として、新に加へていただきます。

この課題の導き入れ方は、どういふ風に工夫致しませうか。

「海行かば」に就て

信時潔氏の作曲になる「海行かば」の歌曲は近時、殊に大東亞戦争開戦以來全國津々浦々で歌はれ最近新紙の傳ふところに依れば、儀式等に於ても必ず「國民の歌」として歌はれることに決定した中、事實この曲も豪壯森嚴な點で近時傑出せるものだがその歌詞である「海行かば」は言ふまでも無く萬葉集載するところの大伴家持作の長歌の一部である。今その全章を掲げる事は餘白なく残念乍ら割愛するが同集卷第十八の央ころに出てる可なり長い歌である。題は「賀陸奥國出金詔書歌一首並短歌」とあり長歌の後に反歌として短歌が三首載つてゐる。長歌は「葦原の瑞穂國を天降り知らしめしける天皇の 神の命の 御代重ね 天の日嗣と 知らし來る 君の御代々々しき坐せる……」から始まつて先づ葦原の瑞穂の國の物資の豊かさを賞め讃へた後天平十九年聖武帝が東大寺に盧遮那佛を作られその塗料に黄金を用いたのであるが、恰もその黄金の不足を補ふかの如く時、偶々題名に示す如く僻遠の陸奥の國から本朝最初の黄金が貢ぜられたことを家持は欣び讚へ、その瑞祥を禮讃して後、それにつけても吾が大伴家こそは遠つ神祖以來忠誠軍功を誇る家門であることを愈思ひて大伴の遠つ神祖の其の名をば大來目主と負ひ持ちて仕へし官 海行かば 水漬く屍 山行かば 草むす屍 大君の邊にこそ死なぬ 顧みはせじ」と固く誓つて來た昔からの家格である。朝に夕に劍太刀を腰に取り佩き大君の守りは我を措いて人はあらじと自負してゐるのである。即ち此の家持の誇りこそは、當時から昭和の今日まで大和民族全體の誇りであり一千二百年前に歌はれた此の盡忠の古歌の傳統こそは國民の傳統であり脈々として悠久今日に及んで國民の聲なのである。だから支那事變以來特に大東亞戦争下我等が歌ひ耳にする此の「海行かば」ほど魂の底から我等を搖り動かし醜の御楯たる自負心をよく表現した歌は他に無い。さながら現代に於て作られた如き新鮮純眞な感動を吾人に與へてゐるのも理りである。(記者)

街のお道具屋のお店にお雛様が出てゐることなどをなきつけに
して、もうちきお雛祭りが來ること、みんなのお家のお雛様の有
様を聞くことなどから入ることに致しませう。

これの期待効果は、個人作業の綜合効果、年中行事の興味、心
のやさしみ、手技と言つたやうのことが擧げられると思ひます。
組としての繼續作業時間は、三週間位。